たんさく

青森の戦跡・慰霊碑を巡る①「八戸空襲・海防艦稲木乗組員慰霊碑」

▲蕪島神社境内にある海防艦稲木の戦死者を奉った慰霊碑（右・左）、訪れた4月末は、営巣に来たうみねこ達を見守っていました。

今年で太平洋戦争から80年が経過します。80年経過していることから、青森県内の空襲や戦跡について知っているという方は少しずつ減っています。また、青森県の戦跡は、戦後復興のためや老朽化で取り壊されているものもあります。

今回からの連載では、青森県内に残る戦跡や慰霊碑などを訪ねたいと思います。

一回目は、八戸空襲です。北東北を代表する工業都市である八戸市は、戦前から工業が発達しており、セメント工場、アルコール工場、アルミニウム工場をはじめ、大小様々な工場が立ち並んでいました。また、防衛陣地である別名：八戸要塞の建設が行われ、陸軍の飛行場や海軍が配備されていることもあり、上陸地点の一つとして、米軍も重要視していました。戦争がはじまると軍需工場に指定された工場で中学生が働き、防衛陣地構築のため女学生や国民学校児童も動員されています。

八戸空襲

1945年7月14日、15日に空襲があり、工場地帯や港湾、鉄道、飛行場が空襲されます。同月19日に大空襲を予告するビラがまかれ、8月9日、10日には停泊中だった海防艦「稲木」（いなぎ）と八戸の町が空襲されました。空襲後、市長らが協議し「市民総退去令」が出され、市街地には人がほぼいない状況になります。8月17日に八戸大空襲の予告がありましたが、8月15日に終戦を迎えることとなりました。

1回目の空襲では、工場や民家、鮫港の船舶、陸軍の飛行場などの爆撃により、市内数十箇所で死者行方不明者合わせ452名と多数の重軽傷者が出ています。2回目の空襲では、海防艦「稲木」（いなぎ）が応戦し沈没、200名あまりの乗組員中、館長含め29名が戦死しました。この時基地からの応戦はなく、次から次へと飛来したアメリカ軍機と最後まで八戸を守るために戦いました。町も空襲され、市民にも多数の死傷者が出ます。

八戸市蕪島はその跡こそわかりませんが、基地があり、蕪島神社の境内には、「稲木」の戦没者を弔う慰霊碑があります。蕪島神社では毎年、8月9日に関係者や遺族があつまり、犠牲者を弔う慰霊祭が開かれています。

▲蕪島からも見える白銀西堤防は戦跡ではありませんが、1950年に完成してから、1967年に引き上げられるまで、応急的に3隻のタンカーを沈めて作られた全国でもめずらしい「沈船防波堤」（ちんせんぼうはてい）でした。3隻のうちの2隻は未完成のタンカーでしたが、のこり1隻の「東城丸」は戦時中、資源輸送中に損傷しながらも、任務を果たしますが修理の終わらないまま終戦を迎えた船でした。

▲数年前火災から再建された商売繁盛、漁業安全の守り神として古くから親しまれる「蕪嶋神社」があり、貴重なうみねこの営巣地でもある「蕪島」。八戸市を代表する観光地でもあります。

そんな蕪島ですが、戦前には、海軍の軍事施設がありました。

発行　生活協同組合コープあおもり　〒038-0012　青森市柳川二丁目4－22　017-766-1614　FAX017-766-1462
コープあおもりのホームページ《https://www.aomori.coop/》　／ 印刷　㈱サンエイ　017-738-0040